

飼料用米に取り組もう！

水田農業をめぐる動向

米価は一定回復したものの、まだまだ改善の余地は大きい

在庫量と価格には相関関係が見られ、在庫量が少なければ価格が高く、在庫量が多くなるほど価格は低くなる傾向にあります。



27年産米の価格は22年産水準にとどまっています。

28年産米の取り組み次第では、過剰在庫が解消されず、再び米価が下落する恐れがあります。

さらに、主食用米の需要は減少傾向



だから、需要に応じた生産が必要

品目	需要動向
麦・大豆	需要は堅調だが、産地によって生産拡大に向けた技術的課題あり。
加工用米	近年の生産量の拡大により、過剰傾向で推移。
備蓄米	買入枠が減少（27年産 25万ト→28年産 22.5万ト→29年産 20万ト）。
米粉用米	過剰在庫は一定解消されたが、需要は依然として伸び悩み。
飼料用米	最も大きな需要が存在。

飼料用米に取り組むメリット

① 所得確保と経営安定が実現！

➡作付段階で収入が見通せるため、**経営安定**につながります。（収入試算は別掲）

② 主食用米の需給改善！

➡飼料用米の取り組みを通じて、**主食用米の需要に応じた生産**を実現できます。

③ 水田をフル活用！

➡**多面的機能の発揮、耕作放棄地の解消、食料自給率の向上**といった効果も生まれます。

耕そう、大地と地域の未来。

JAグループ

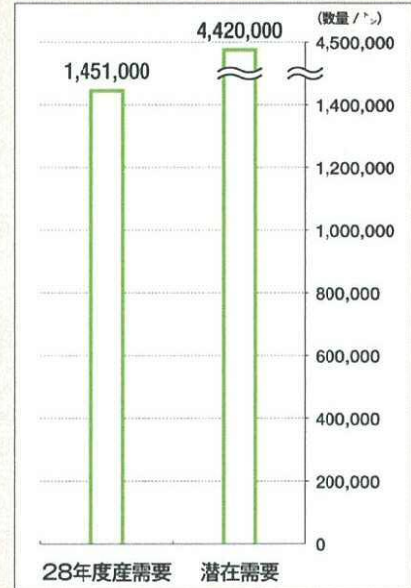


飼料用米の生産量と需要量

生産量



需要量



注 1. 農林水産省「米に関するマンスリーレポート」等をもとに作成しています。 注 2. 需要量は、一部に政府備蓄米、MA米を含めた数量です。

関係者のみなさまの声

飼料用米のメリットは所得確保。我が家も飼料用米に移行する時、父親との攻防があったが、経営安定につながり今では理解が深まっている。

飼料用米の増産に向けて、10～20年スパンで先を見通せる「持続性」、畜産サイドと耕種サイドの「需要と供給のバランス」、トウモロコシ代替として十分な「飼料価値」の3点が必要。将来ある若い人達が米づくりを続けられるように、飼料用米の良さをどう伝えるか考えていきたい。

生産者



栃木県農協青年部連盟 顧問
横尾 光広 様

飼料会社として飼料米を使用することが、米農家・畜産農家の皆様の負託に応えることだと体制を整備してまいりました。鹿島工場では専用ラインを新設し受入・使用能力を増強しており、14万トンまで可能となりました。JAグループ飼料工場全体で80万トン超の飼料用米を使用できる体制となっています。関係者の意識も変わっており、6～7年前まで「米を飼料に使うとはけしからん」と怒られたことがウソのようです。

これからも飼料用米事業を継続発展させていくため、物流・保管体制の更なる合理化に向けて、関連機関・関連会社と連携強化し、なお一層努力してまいります。

飼料会社



JA東日本くみあい飼料株式会社 常務取締役
白石 光広 様

コープネットグループの生協の宅配・店舗において2009年から取り扱いを開始した「お米育ち豚」は、産地との連携・交流の中で育んだ「おいしさ」と「安全・安心」が消費者・生協組合員の高い評価を受け、売上は年々伸長しています。加えて「お米育ち」の商品取扱いは、卵、鶏肉、牛肉に広がっています。

食卓での営みを通じて生産と消費をつなぎ、食料自給力の向上と環境保全に貢献する、こうした力強い関係を今後も広げてまいりたいと存じます。

実需者



生活協同組合連合会コープネット事業連合 常務理事
藤田 親継 様